

スズメのキャラクター「すずちゃん」で 地域との関係再構築

社員の力を生かし社内でデザイン

クリエイティブ建設 [千葉県柏市]



「すずちゃん」のぬいぐるみ。近くの神社に住んでいるという設定だ

長引くコロナ禍で、対面でのイベントが開催しづらい状況が長く続いている。イベントを関係構築の主な手段としていたクリエイティブ建設(千葉県柏市)は、コロナ禍で顧客や地域との関係を強化、再構築するため、スズメをモチーフにしたマスコットキャラクター「すずちゃん」を発案。事業再構築補助金などを活用してつくったぬいぐるみを、見込み客などに配布し、自社を「思い出してもらおう」きっかけづくりに取り組む。



クリエイティブ建設 社長の鈴木一功さん

社長の鈴木一功さんは、以前の同社を「リアルイベントが得意な工務店」だったと表現する。地域の人々を集めた流しそうめん大会で、600人以上を集めた経験もある。しかし、コロナ禍でリアルイベント、特に飲食を伴うものがほぼ開催不可能に。

同時期に、会社も大きく変化した。2019年、受注は好調だったが、仕事量が増えクレームも増加した結果、一部の社員が退職。鈴木さんは退職者を出してしまったことを悔い「残ってくれたスタッフの良さを尊重しよう」と考えた。

そんな状況下で、広報・顧客対応担当の社員がマスコットキャラをつくることを提案。鈴木さんは、イベントに替わる手段としてマスコットに有用性を見出し、社員の個性も生かせると考え、そのアイデアをさっそく

採用した。

社員や地域と共につくりあげる

マスコットづくりのプロジェクトは2021年初頭からスタート。月に1回のマーケティングミーティングで打ち合わせを重ね、春にはデザインが決定。デザインは、絵心のある発案者の社員が担当した。

スズメをモチーフにしたのは、同年5月から始めたサブスクリプション型の維持管理サービス「住ま暮らサポート」のロゴが、桜であることも関連している。「桜に近く、親しみやすい存在」で、かつ社名にも近い響きだったからだ。

デザイン決定後は、インスタグラムや、4200人が登録しているというLINEを利用して「名付け親選手権」を開催。70人からの応募があったと

クリエイティブ建設

所在地：千葉県柏市増尾 875-3

設立：1994年

社員数：9人

年間棟数：リノベーション5～8件、

リフォーム100～120件

平均単価：リノベーション1500万円(戸建て)

いう。OB顧客や地域を巻き込んで、キャラクターをつくり上げていった。

最も大変だったのは、決定したデザインを元にぬいぐるみを試作する過程だったという。「(平面の)絵から立体にするので、イメージがうまく形になっていないこともあった」ため、3カ月を要したという。ぬいぐるみの製造にかかった約100万円の費用は、事業再構築補助金と、柏市の補助金でまかされた。

かわいさを認知のツールに

まずは、リフォームの見積もりを依頼してきた見込み客に対し、ぬい

ぐるみをプレゼントするキャンペーンを展開した。鈴木さんは「見積もり(の金額)よりも、取り組みの方が記憶に残りやすい」と話す。認知のフックとして、すずちゃんを捉えている。

また、すずちゃんは同社のペルソナとも密接に関連している。鈴木さんが考える顧客像は「築10年ぐらいの戸建てに住む一家の女性(主婦)」。リフォーム、つまり工務店のニーズが生じた際に「脅すようなYouTubeの動画よりも、子どもと“かわいいね”と話す中で弊社を思い出してもらおう」きっかけづくりが、すずちゃんに託された役目だ。

今年は、鈴木さん自身をキャラクター化した「カズノリ社長」も登場する予定。すずちゃんと共に漫画化され、カズノリ社長は「クローキング後に気づきを与える役目」を担っていく。



「名付け親選手権」で最優秀賞を受賞した人にぬいぐるみをプレゼント